

堀田丸正、RIZAPグループ入り初の決算で黒字化達成 主力意匠燃糸・洋装事業がけん引

2017年11月14日に行われた、堀田丸正株式会社2018年3月期第2四半期決算説明会の内容を書き起こしでお伝えします。

ハイライト

ハイライト

堀田丸正 株式会社

①第1Qの赤字決算から第2Qで反転、黒字化達成

- ・主力の意匠燃糸事業、洋装事業が牽引
- ・準主力の和装事業、寝装事業の効率化実現
- ・(株)馬里邑よりの営業部門取込みが寄与

②100日プランに基づく構造改革の実施

- ・販売管理比率3%改善
- ・子会社吉利の事業所廃止、統合
- ・グループ人事交流による人件費圧縮

③不採算事業の切り離し

- ・タケオニシダ事業の譲渡(10月31日)
- ・前期営業赤字▲29百万(前々期同▲59百万)

大西雅美氏：堀田丸正の大西でございます。よろしくお願いいたします。それでは、ご説明を始めさせていただきます。堀田丸正につきましては、6月の末に（RIZAPに）グループインをいたしました。今回の第2四半期が、RIZAPグループになってから初めての決算でございます。

今年に関しましては、テーマといたしまして、成長戦略推進のための基盤作りの年にしていこうということで、徹底して構造改革を進めていく年にさせていただいております。

ハイライトといたしましては、第1四半期がグループイン前でございますけれども、赤字の決算でございます。（グループインしてから）おかげさまで第2四半期の3ヶ月間、期間合計でさっそく反転をさせていただくことができまして、黒字計上となりました。

やはり主力である、意匠燃糸と言われる糸の部門。それから洋装と言われる部門。この2つのメイン事業が、黒字化の牽引役になったというところがございます。洋装に関しましては、（2017年）7月1日に同じグループ会社の馬里邑より営業部門の取り込みをしまして、このぶんも洋装事業に寄与したところがございます。それから、毎回各会社に入らせてもらったときにやることとございますけれども、「100日プラン」を作らせていただきました。7月1日からだいたい9月末まで、いわゆる会社の中身を短期集中で開発するところです。この期間でも販管費は3パーセント下がりました、そのぶん収益に貢献しています。また、子会社が何社かあるんですけども、非常に子会社のコスト構造的にも、コストがかかる構造でございましたので、和装雑貨を扱う子会社の吉利に関しましては、事業所を統廃合して効率化をしました。それから、RIZAPグループと人事交流をさせていただいて、かなり固定化した人件費がございます。雇用をしっかり守りながら新しいキャリアを設定していただくという意味で、グループ人事交流による人件費の削減も、この100日の間にかなり進めております。それからもう1つ、不採算事業の切り離しでございます。10月末に、旧来百貨店中心にオートクチュールのデザイナーズブランドを展開しておりました、タケオニシダという事業でございます。残念ながら一昨年それから昨年と、大きく洋装の中では赤字事業でございました。ここに関しましては、10月末に譲渡いたしました。第3四半期からは、この不採算部分はなくなるというかたちでございます。

会社概要

- 会社名: 堀田丸正株式会社
- 創業: 1861年(文久元年、創業155年)
- 上場市場: 東京証券取引所 第2部
- 事業内容: 和装品、宝飾品、和装小物・寝装品等の卸売販売、
婦人用品・意匠燃糸等の製造・卸売販売、
横ニットの企画・製造・販売
- 従業員数: 連結 174名 (2017年3月末日時点)

おかげさまで155年

堀田丸正 株式会社



※意匠燃糸(いしょうねんし)とは:

- ・糸の表面に色や形状の加工をし、特徴のある表情や風合い、装飾効果を持たせた糸素材
- ・燃糸(ねんし)技術は、アパレル等の繊維製品の質感、肌触り、デザイン、耐久性などの品質・付加価値を左右する重要な要素技術

もう1回レビューで、堀田丸正という会社は何をやっているのかな、というところまでございます。1つは、生業の呉服・和装でございます。それから、洋装。そして、メイン事業の意匠燃糸。最後、額的にはそんなに大きくないのですが、布団などの寝装品を扱っています。メインでは、大きくこの4事業を扱っております。

連結損益計算書 (第2Q)

連結損益計算書(第2Q)

堀田丸正 株式会社

- 主力の意匠燃糸事業及び洋装事業が牽引し、売上が飛躍的に伸長
- 第1Qで不振であった和装事業が、確定売上管理の徹底でリカバリー
- 100日プランに基づく構造改革効果が前倒しで現れ、コスト削減が進捗
- 営業利益から当期純利益に至るまで期間利益で黒字転換を実現

(単位:百万円)

	2017年3月期 第2Q	2018年3月期 第2Q	増減額	増減率
売上高	1,716	2,085	+369	+21.5%
売上総利益	546	668	+122	+26.0%
販管費	570	631	+61	+10.7%
営業利益	△24	36	+60	—
経常利益	△17	44	+61	—
当期純利益	△15	37	+52	—

Copyright © 2017 MARUSHOHOTTA CO.,LTD. All rights reserved.

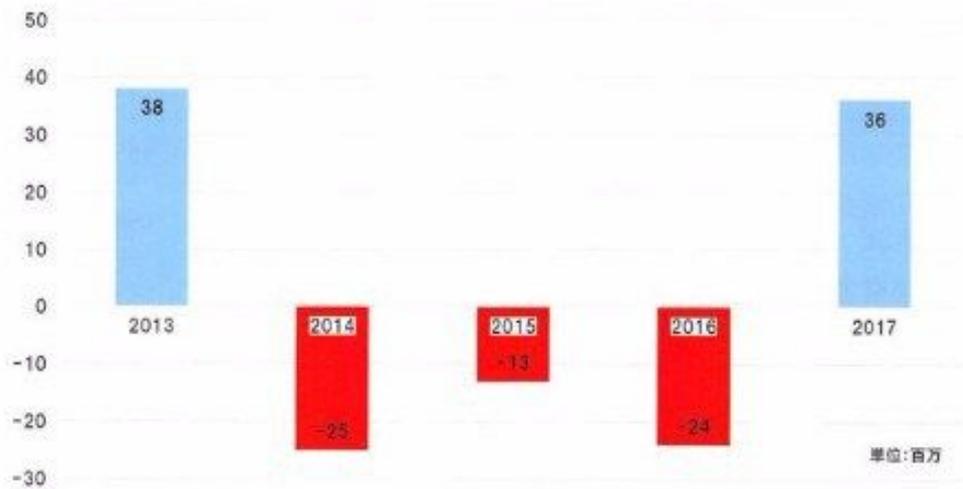
4

決算でございます。第2四半期で営業利益は3,600万円で、おかげさまで前年に比べますと、赤字から黒字に転換できてございます。

堀田に関しましては、BtoBでナショナルブランドを仕入れて各小売店さまに卸すという、非常にマージン的には低いビジネスモデルです。そんな中でも、売上もおかげさまで、馬里邑事業の負荷も含めて伸びました。固定費をカバーして、営業利益は黒字計上となっております。

第2Q 連結営業利益実績 過年度推移

第2Qでは、2013年以来4年ぶりの黒字化達成



前に遡りますと、第2四半期は非常に堀田は弱い四半期でございますけども、2013年以来4年ぶりに、第2四半期の3ヶ月期間だけで黒字化ができたということでございます。

連結損益計算書（第2Q累計）

連結損益計算書(第2Q累計)

堀田丸正 株式会社

- 馬里邑事業の受入(7/1)もあり、売上・売上総利益大幅増加
- 100日プランに基づく構造改革の実施効果で販売管理費は抑制
- 前期第2Q累計比で、飛躍的に営業利益及び経常利益の改善を実現
- 前期同累計比で当期純利益では黒字転換を達成

(単位:百万円)

	2017年3月期 第2Q累計	2018年3月期 第2Q累計	増減額	増減率
売上高	3,450	3,781	+331	+9.6%
売上総利益	1,137	1,217	+80	+7.0%
販管費	1,131	1,189	+58	+5.1%
営業利益	6	28	+22	+366.6%
経常利益	8	24	+16	+200.0%
当期純利益	△4	11	+15	—

Copyright © 2017 MARUSHOHOTTA CO.,LTD. All rights reserved.

6

第2四半期累計でございます。上半期累計でも、2,800万円の営業利益の計上でございます。額は非常に小さいんですけども、昨年に比べますと大きく改善をされてきております。

セグメント別実績 (第2Q)

セグメント別実績(第2Q)

堀田丸正 株式会社

- 洋装事業は(株)馬里邑より営業分野を受入し、売上規模拡大し、利益も牽引
- 和装事業は確定売上管理の徹底、子会社吉利の構造改革推進で好転

(百万円：%)

	売上高				セグメント利益			
	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比
連結	1,716	2,085	+369	+21.5	△24	36	+60	—
洋装事業	568	930	+362	+63.7	△21	44	+65	—
意匠燃糸事業	486	501	+15	+3.1	47	38	△9	△19.1
和装事業	512	516	+4	+0.8	△24	4	28	—
寝装事業	149	138	△11	△7.4	7	6	△1	△14.2
本社・調整	2	0	△2	—	△33	△57	△24	△72.7

※連結売上高、経常利益、当期利益は連結相殺を含んでおります。

セグメント別実績でございます。第2四半期の3ヶ月の期間で申し上げますと、やはり洋装が、営業利益で4,400万円。意匠燃糸で、3,800万円。(これらで)約8,000万円強の営業利益の捻出をいたしております。和装・寝装に関しましては、わずかながらですけれども、利益を計上できてございます。

セグメント別実績 (第2Q累計)

セグメント別実績(第2Q累計)

堀田丸正 株式会社

- 主力の意匠燃糸事業及び洋装事業が牽引し、大幅増益を達成
- 第2Qで改善傾向はあるものの和装事業・寝装事業の改革が課題

(百万円：%)

	売上高				セグメント利益			
	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比
連結	3,450	3,781	+331	+9.6	6	28	+22	+366.6
洋装事業	1,181	1,521	+340	+28.8	△11	77	+88	—
意匠燃糸事業	878	995	+117	13.3	62	67	+5	+8.1
和装事業	1,094	983	△111	△10.1	3	△16	△36	—
寝装事業	294	280	△14	△4.7	12	12	0	0.0
本社・調整	2	0	△2	—	△62	△112	△50	△80.6

※連結売上高、経常利益、当期利益は連結相殺を含んでおります。

上半期累計にいたしますと、やはり第1四半期の赤字が非常に重くなっております。和装に関しましては第1四半期、非常に赤字が悪かったので、構造改革でリカバーを少しかけたんです。セグメントで言うと、和装だけが赤字で、洋装・意匠は計画以上の利益計上をすることができております。

連結貸借対照表

連結貸借対照表

堀田丸正 株式会社

- 自己資本率は前期末63.2%から 69.5%に改善
- 流動比率は前期末223.3%から 289.0%に改善

(百万円)

資産の部	2017/3 期末	2017/9末	増減額	負債・ 純資産の部	2017/3 期末	2017/9末	増減額
流動資産	3,503	5,752	+2,249	流動負債	1,568	1,990	+422
固定資産	957	944	△13	固定負債	69	51	△18
資産合計	4,460	6,696	+2,236	純資産	2,821	4,654	+1,833
				負債・純 資産合計	4,460	6,696	+2,236

BSでございます。現段階で69.5パーセントまで、自己資本比率が上がっております。非常に厳しいときもあったと聞いているんですけども、非常に安定した財務状況になってきてございます。

今後の経営方針

①100日プランに基づく構造改革の継続推進

- ・事業所の統廃合及び縮小による効率改善
- ・コスト意識の醸成により、更なる経費節減
- ・グループ人材交流による人件費の圧縮

②主力意匠燃糸及び洋装事業の更なる拡大

- ・意匠燃糸中国現地法人の収益性改善
- ・海外アカウント拡大のための欧米展示会参加
- ・馬里邑事業の効率化及び拡大推進

③RIZAPグループ推進のSPA戦略の基盤づくり

- ・中国現地法人によるライセンス取得
- ・RIZAPグループSPA戦略推進室との連携強化

今後でございますが、1つはまだ100日プランといっても3ヶ月しか経過しておりませんので、さらに来年（2018年）の3月まで成長をしていくために、損益分岐点を下げ、固定費も下げるというところも含めて、さらに事業所の統廃合を進めております。

事業所が多岐にわたっておりまして、直近では京都にかなり大きな呉服の拠点を持っております。（そこで）2フロア使っているところを1フロアにするなど。また、それ以外の事業所についても統廃合をして、コスト構造的には下げていきます。

それから、やはり非常にマージン率の低いBtoBの卸商売でございますが、もう1回各従業員のみなさまとお話しさせていただいて、コスト構造・コスト意識の醸成を進めております。さらに、まだグループ人材交流に関しては第3四半期、第4四半期と進んでいくと思っておりますので、固定費の圧縮・損益分岐点の低減を進めていく。

それから、主力である意匠燃糸・洋装事業。ここはさらに伸ばしていきたいと考えています。意匠燃糸に関しましては、今中国の現地法人での商売と日本での商売との、大きく分けて2つございます。今現状、ちょっと状況が変わってきておりますのは、昨年までは中国での意匠燃糸が意匠燃糸全体を引っばっていて、日本が厳しかったというところ です。

ただ、今年はちょっと様相が変わっています。国内のアパレルさまから、日本の意匠燃糸の事業部に糸のご発注をいただくケースが多くなっておりまして、たぶん今年度の3月までは、日本の意匠燃糸の事業が意匠燃糸全体を牽引していくのかなと思っています。

ただ、やはり将来の成長戦略を考えますと、中国でのグローバル企業への糸の卸をとにかく積極的に進めていくために、ファイナンスも含めて検討していきたいと考えています。

海外のアカウント拡大のための欧米の展示会に参加すること。今は社内だけの展示会で生業を立ててますけども、パリやニューヨーク等でも展示会がございますので、積極的にこういったところにも参加をさせていただいて、新しいグローバル企業のアカウントを増やしていきたいと考えています。

それから、7月1日に入りました、馬里邑の事業です。ここに関しましては、全国70ヶ所の百貨店での商いが中心ですけれども、さらに収益率が上がるように効率化していきたいと思っています。

3つ目は、やはり中国に拠点を持っている企業でございますので、しかも川上の原糸を扱っているところです。今進めているSPA戦略の重要な拠点となるように、今現在堀田が持っているライセンスではそこまでできませんので、（中国現地法人による）ライセンスの取得を進めております。

それから、RIZAPグループのSPA戦略推進室と連携を強化させていただいて、すぐ結果を出せるようにしていきたいと考えています。ここは、今申し上げたことの3割でございます。ここが、今のSPA戦略の拠点。堀田丸正が、川上のスタートラインに立ちたいと考えています。

今期の業績見通し（年間）

今期の業績見通し（年間） 堀田丸正 株式会社

2Qは当初計画を上回り着地。通期当期計画達成に向け、経過は順調 (単位:百万円)

	2017年3月期 年間	2018年3月期 年間	増減額	増減率
売上高	7,488	7,500	+12	+0.2%
売上総利益	2,398	2,400	+2	+0.1%
販管費	2,311	2,289	△22	△1.0%
営業利益	86	111	+25	+28.3%
経常利益	108	110	+2	+1.2%
当期純利益	86	75	△11	△13.6%

●来期以降も継続的な利益拡大を図るため、下記取組みを推進

- ①赤字であるタケオニシダ事業の譲渡により、特別損失計上
- ②構造改革における費用の軽減(事業所統合・グループ人事交流)

最後に、業績でございます。上方修正を第2四半期にさせていただきまして、これからいろんな構造改革を進めていくという結果も含めて、今開示してある通期の見込みを修正せずに、逆に言うと上積みするかたちでご発表できるように、進めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。